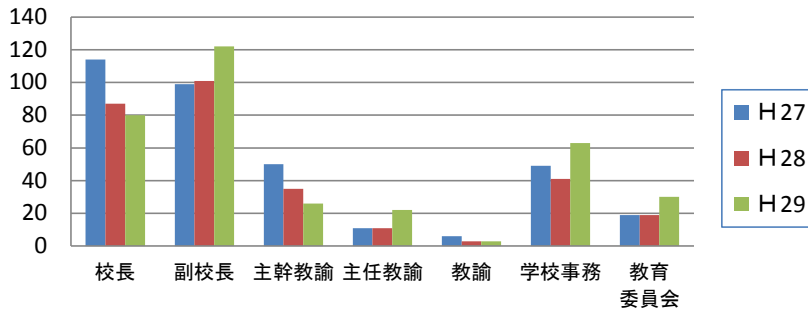


# 平成29年度 校務改善推進事業発表会 参加者アンケートまとめ

## 参加者の内訳の推移(過去3年間)



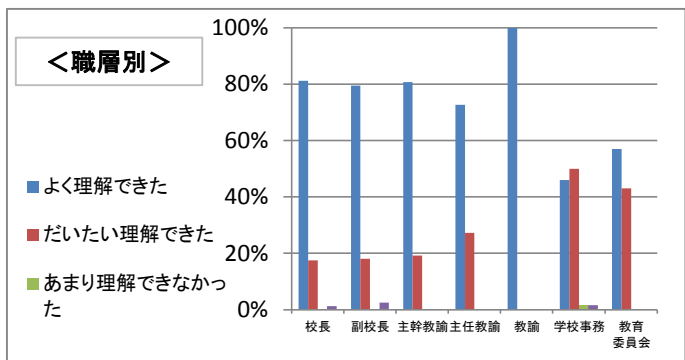
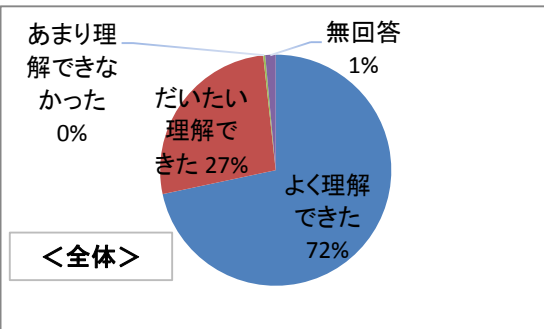
### <考察>

今年度の参加者は、346名だった。

例年、参加者の約6割が管理職である。今回は、副校長、主任教諭、学校事務、教育委員会の参加が例年に比べて多かった。

	校長	副校長	主幹教諭	主任教諭	教諭	学校事務	教育委員会	計
H27	114	99	50	11	6	49	19	348
H28	87	101	35	11	3	41	19	297
H29	80	122	26	22	3	63	30	346

## 1 校務改善の必要性について

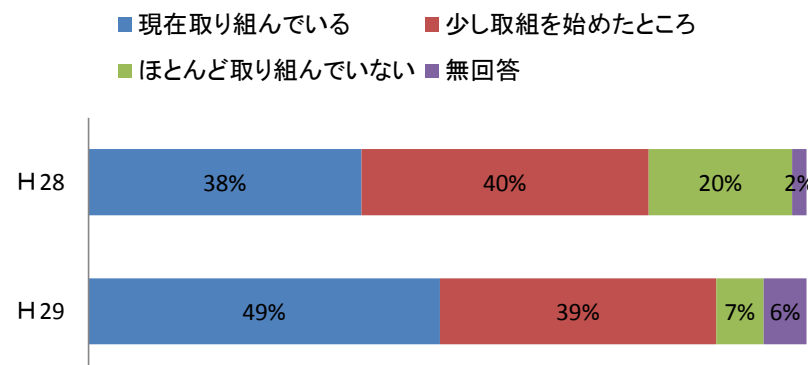


	校長	副校長	主幹教諭	主任教諭	教諭	学校事務	教育委員会
よく理解できた	81%	80%	81%	73%	100%	46%	57%
だいたい理解できた	18%	18%	19%	27%	0%	50%	43%
あまり理解できなかった	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%
無回答	1%	2%	0%	0%	0%	2%	0%

### <考察>

「よく理解できた」「だいたい理解できた」という肯定的評価の割合が大半を占めた。職層によって開きがあるが、校務改善について共通理解する機会を増やし、組織的に校務改善を進めていく余地があることがうかがえる。

## 2 校務改善の取組の状況について

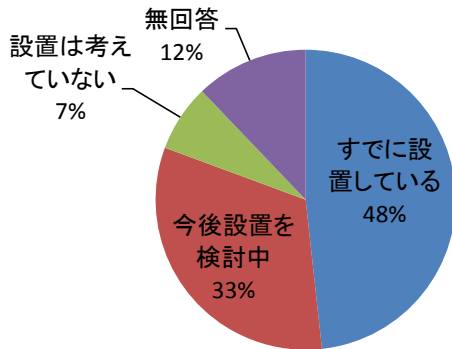


### <考察>

9割近くの学校が「取り組んでいる」、「取組を始めている」と答え、昨年度に比べて校務改善に取り組んでいる学校が増加している。

校務改善に取り組んでいる学校の参加が多いことから、発表会を通して、より効果的な校務改善の具体例や工夫を自校の取組の参考にしようとしていることがうかがえる。

### 3 経営支援部の設置について



#### <考察>

全体としては参加者の約5割の学校で、既に経営支援部を設置している。「今後設置を検討中」である学校を含めると約8割の学校が経営支援部の設置について前向きに捉えている。

#### <アンケートの自由記述より>

##### 「全体を通して」

- ・先進的な取組を知ることができて良かった。【校長】
- ・本校における取組推進のヒントを得ることができた。【校長】
- ・発表内容は、多くが取り組んでいることでした。本校の取組は、間違っていなかったと自信になりました。【校長】
- ・役割分担を明確にすることが校務改善につながると発表から感じた。【副校長】
- ・新しいことを立ち上げるということよりも学校の実態に応じて、どれだけ効率よくチームワークよく仕事をしていくかが必要であると感じました。【副校長】
- ・スクラップ&ビルドの考えを本校でも伝えていく。【主幹教諭】
- ・課題は時間確保だと思います。会議を時間割に組み込めなければ多忙感が増す。16時以降の会議が当たり前になると休憩時間が名ばかりになります。負担と我慢から成り立つ経営支援にはさせたくないです。【主任教諭】
- ・具体的な内容、理由等、とても理解しやすかったです。今後の学校経営に活かしていきたい。【学校事務】
- ・若手教員が半数近くを占める中、スタンダードを作ることが、一番の負担軽減になると感じました。【学校事務】
- ・学校には非効率と思うことがたくさんあります。小さなことの改善の積み重ねが大切だと感じました。【学校事務】
- ・教員の働き方改革といわれる中、学校の校務改善が進み、児童生徒のための時間が増えるよう、行政職として課題・問題解決の参考としたい。【教育委員会】
- ・校務改善に向けては、それぞれの立場にて、同じ方向を向き、方向性を明確にし、最後はトップダウンにより進めていかなければ、真に実行性のあるものが出来上がらないと思う。都教委・地教委・学校の全てが、力を合わせなければ難しいと思う。【教育委員会】
- ・校務改善、学校経営支援の推進には、「校長の経営方針の明確化」、「教員一人一人の意識改革」、「業務のスタンダード、ルーティン化」が必要と感じた。【教育委員会】
- ・ICT（校務支援システム）の活用なしでは不可能と思っていたが、様々な取組があるのだと知り、大変参考になった。【教育委員会】

##### 「府中第三小学校の発表に関連して」

- ・校務改善支援員や事務室の機能強化、校務支援システム等については区市町村での差が大きいと思う。とても良いことなので、全都的に推進してもらいたいと思う。【副校長】
- ・分掌ファイルとPC上のファイルが同じ番号というのはとても良いと考えます。【副校長】
- ・学校経営中期目標に基づく具体的方策に対して各教員がどう取り組むかを考え、行動することで学校全体が同じベクトルに向かうことができると思った。その上でこそミドルアップダウン・マネジメントが行えるのだろう。また、特別支援部がすぐに動けること、ICT部により事務仕事が減少するということがすばらしいと思う。【主任教諭】
- ・私費会計について、本校では学年が担当している。事務職の私の個人の意見としては、府中三小のように事務職が行う方が良いと思う（教員は教員でなければできない仕事に時間を使ってほしいため）が、本校の事務職の人数では対応が困難だと思う。【学校事務】

### 「船橋小学校の発表の発表に関連して」

- ・事例が具体的で分かりやすく、本校の校務改善に生かしていこうと思いました。【校長】
- ・教員が子供たちへ同じように接していくルーティン化、スタンダードの重要性を感じた。しかも、トップダウンではなく、話し合った結果によるミドルアップダウンが学校を活性化するための要因となつたと感じた。【副校長】
- ・「話し合って決める」、「決めたことは守る」という言葉が印象に残りました。【副校長】
- ・「誰が動くかではなく、とにかく動いて実行することで他の歯車も回る」は正にそのとおりだと思います。【主任教諭】
- ・失敗したことも詳しく挙げて発表していただいたので、すごく良かったです。【教諭】
- ・コミュニケーションが大事というのが心に残った。【学校事務】
- ・何から手を付けるかだけでなく、どこかが動けば連動して全体が動くというように、校務改善のために動かなければならぬことを再認識した。【教育委員会】

### 「稲城第三中学校の発表に関連して」

- ・経営支援ではなく、経営推進という考え方に共感しました。【校長】
- ・教員の主体性、参画意識が多忙感の解消になることが理解できた。【校長】
- ・本校の連絡会は口頭が主でしたが、学校経営推進部の予定・記録用紙が大変参考になりました。【副校長】
- ・「目新しい取組はない。これまでの実践の中に改善のヒントがある。」という言葉が強く残りました。【主幹教諭】
- ・経営主任の仕事を任されてから現在に至るまで、何をすべきか曖昧なままでした。しかし、稲城三中の発表を受けて、今後自分がどのように職務を行っていくかの方向性が見えたような気がしております。【主任教諭】
- ・事務連絡会の設置など、運営がうまくいっている学校は話し合いの場、コミュニケーションを大事にしていると思つた。【学校事務】

### 「意識改革について」

- ・職員の意識改革が大切だと感じた。そのために会議の精選、分掌の工夫をし、教員が主体的に働ける環境をつくるのが大切だと感じた。【主幹教諭】
- ・仕事を分担したり共有したりすることで全ての教育が当事者意識を持って仕事ができると良いと思います。そして、何より仕事量の低減が図れば、児童と向き合う時間が多く取れるので良いと思います。【主任教諭】

### 「ミドルリーダーについて」

- ・学校経営を駆動していくキーマンはどのように育てるのが、これからの自分の課題です。歯車がかみ合つて全体が回り始めれば様々な改善案が実現できると思つました。【副校長】
- ・経営支援部にミドルリーダーである主幹教諭をどう組み込んでいくかが大切であることが分かつた。また、これを推進することにより人材育成につながっていくことが分かつた。【副校長】

### 「経営支援部について」

- ・現在の「校務改善」は、副校長への業務集中を解消する方向性があると思われるが、そのために経営支援部を設置することが必ずしも教員全体、学校全体の校務「軽減」や「働き方改革」までには至らないのではないかと感じた。多忙「感」の解消が現実路線なのかとも思う。【副校長】
- ・経営方針を実現するための経営支援部であると改めて感じました。【副校長】
- ・事務職員としては、どのような形で学校経営に関わるべきか迷うことも多いので経営支援部を設置し、組織化することによって仕事をしやすくなるのではないかと思います。【学校事務】
- ・市内小中学校の経営支援部の設置をこれまで以上に推進していきたい。【教育委員会】

### 「事務職員の関与について」

- ・学校事務職員が担う事務処理能力の向上や学校経営への参画は必要不可欠であると再認識しました。【学校事務】
- ・事務職員が組織内に入り込めていないと感じました。もっと事務職員を活用してほしいですし、事務職員も自ら飛び込んでいかねばならないと思います。【学校事務】
- ・事務職員と一緒に取り組むことは、まだまだハードルが高いとあつたが、これが素直に現場の生の声だと思つた。その中で、教員とその他の職員が一体となって取り組む仕組みを継続して考えていきたい。【教育委員会】